

技術・家庭科研究主題

課題を創造的に解決できる生徒が育つ

技術・家庭科の授業

◎ 技術・家庭科

家庭分野

11月10日（水）10:25 ～ 11:15 於：被服室

2年C組【私たちの成長と家族・地域】

「附属幼稚園の園児が成長できる遊び（おもちゃ）を考えよう」

授業者 竹内 裕子

[本時のねらい]

プライオリティチャートを用いて、解決策を導き出した過程を振り返る活動を行う。そうすることで導き出した解決策が目的や条件、グループの優先順位とその割合に最も適していたかを評価し、その理由を考察することができたか、プライオリティチャートのまとめの記述からを検証する。

第2学年C組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

令和3年11月10日（水）第2時限 被服室

指導者 竹内 裕子

1 題 材 「私たちの成長と家族・地域

～附属幼稚園の園児が成長できる遊び（おもちゃ）を考えよう～

2 題材の授業構想

(1) 題材について

近年、私たちの生活は物質的には大変豊かになり、より便利に変化している一方、少子高齢化や社会の変化に伴う家族形態の多様化から家庭生活も変化している。地域でも異年齢の子ども同士の関わりが減り、それに伴って生徒が幼児と関わる機会はきわめて少なくなっている。生徒が幼児と触れ合う機会の減少は、将来親になったときに育児不安につながる可能性もあると考えられる。このような状況にある中学生が幼児への理解を深め、幼児の成長、発達について学習することは大変意義深いことである。そこで、幼児と関わる機会を設け、幼児の発達に関わる複数のポイントを踏まえて幼児の遊びについて考える場面を設定することで、幼児と関わろうとする態度を育みたい。

本実践では、課題を「附属幼稚園の園児が成長できる遊び（おもちゃ）を考えよう」として、まず幼児の心身の発達や特徴など、課題解決に向けて考慮すべきポイントに関する基礎的な知識を身に付けさせる。次に、最適な課題解決に向けて、ポイントの優先順位とその割合について検討させ、各ポイント間のトレードオフの関係を考慮させた上で、プライオリティチャートに帯グラフの形で表させる。そして、ソリューションシートを用いてプライオリティチャートの帯グラフに即した解決策を導き出させる。最後に、実際に幼児と遊ぶ活動を通して、導き出した解決策が目的や条件、グループの優先順位とその割合に適していたかを振り返らせ、自己評価させる。これらの活動を通して、幼児とのよりよい関わり方を探ろうとする態度やポイントの優先順位とその割合について判断する力とその条件に最も適した遊び（おもちゃ）を解決策として導き出す力を育てたい。

(2) 具体的な手立て：メタ認知を促進させる学習プリントの工夫

① プライオリティチャート（後掲資料1）

本実践では、「附属幼稚園の園児が成長できる遊び（おもちゃ）を考えよう」という課題を解決するために考慮すべき幼児の発達に関わる複数のポイントを安全性、運動、学習、社会性、発想の五つに分類する。このとき、大鴻館（体育館）で年長クラスを対象にすることを条件とした。「安全性」には、園児がケガをすることがないように遊びの工夫が含まれる。「運動」には、身体や運動機能の発達に関わる工夫が含まれる。「学習」には、言葉や認知の発達に関わる工夫が含まれる。「社会性」には、友達との関わり、話し合うなどの社会性の発達に関わる工夫が含まれる。「発想」には、想像力や表現力などの発達に関わる工夫が含まれる。これらのポイントの優先順位とその割合について話し合いを行い、プライオリティチャートに帯グラフの形でまとめさせる。

この場面に「モニタリング」を位置付け、目的や条件を踏まえて理由とともに帯グラフとして表せているか問うことで、拡散的思考を働かせ、課題解決に必要な全てのポイントを捉えることができるようにし、自己評価を行わせるとともに、必要に応じて追記させる。

また、課題解決後にはプライオリティチャートで考えたポイントの優先順位とその割合に最も適した解決策を導き出すことができているか自己評価させることでメタ認知を促進させ、拡

散的思考と収束的思考の有効性を認識させる。そして、知識の習得状況について振り返りを行わせるとともに、必要に応じて帯グラフを修正させる。(リフレクション・モニタリング)

② ソリューションシート(後掲資料2)

課題を解決するために考慮すべきポイントを整理し、解決策を導き出すための学習プリントとしてソリューションシートを用いる。各ポイントを最優先させた解決方法の一例として「パズル」、「おにごっこ」、「ままごと」、「ブロック」を示し、その特徴をソリューションシートに書き込ませ、利点や欠点、改善策などを話し合わせる。そして、園児がケガをしないための「安全性」を踏まえた上で、プライオリティチャートで考えたポイントの優先順位とその割合に適した解決策を導き出させる。

この場面に「モニタリング」を位置付け、各プライオリティチャートで考えたポイントの優先順位とその割合に最も適した解決策を導き出すことができているか見直しをさせる。そうすることでメタ認知を促進させ、収束的思考を適切に働かせることができたかを振り返らせ、必要に応じて解決策に修正を加えさせる。

(3) 学習の内容と実施計画(後掲資料3)

(4) 題材の目標

知	知識・技能	思	思考・判断・表現	態	主体的に学習に取り組む態度
知	幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解している。幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。				
思	幼児との関わり方について目的や条件を考慮して解決策を導き出し、実践を評価・考察し、論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。				
態	よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に取り組んだり、振り返って見直したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。				

3 本時の指導 「本時16/18」

(1) 指導の意図

前時までに、ポイントの優先順位とその割合をプライオリティチャートに記述させた。また、各ポイントを最優先させた解決方法(遊び)の特徴をソリューションシートに書き込ませ、全体で利点や欠点、改善策について話し合わせた。それらを踏まえた上で、グループでポイントの優先順位とその割合に最も適した解決策を導き出させた。その解決策を基に、遊び(おもちゃ)を計画させ、園児との交流を行わせた。

本時では、まず前時で行った幼稚園交流を振り返り、グループで考えた遊び(おもちゃ)がポイントの優先順位とその割合に対して適していたかを話し合わせる。次に、話し合い活動で気付いたことなどから、必要に応じて修正させ、その内容を全体で発表させる。最後に、題材全体の活動を通して解決策を導き出した過程を振り返らせ、自己評価をさせる。(リフレクション・モニタリング)

(2) 指導目標

知	知識・技能	思	思考・判断・表現	態	主体的に学習に取り組む態度
知	課題を解決するためのポイントを踏まえて、課題解決に必要な知識を理解している。				
思	導き出した解決策が条件や目的、グループの優先順位とその割合に最も適していたかを評価し、その理由を考察する力を身に付けている。				
態	導き出した解決策が条件や目的、グループの優先順位とその割合に最も適していたかを振り返ろうとしている、または、導き出した解決策を見直そうとしている。				

(3) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
2分	1 本時の学習内容をつかむ。	○ 本時の学習の流れを例示し，確認させる。
3分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 0 auto; width: fit-content;">導き出した解決策について振り返ろう</div> 2 課題【附属幼稚園の園児が成長できる遊び(おもちゃ)を考えよう】の基で，話し合い活動を行う。 (1) 課題の確認をする。	○ 学級全体で課題及び条件を確認させ，再度共通理解を図る。 ○ ポイントについて確認させる。
20分	(2) 幼稚園交流の振り返りをする。	○ ポイントの優先順位とその割合に対して適した解決策を導き出すことができていたかをグループで話し合わせる。 ○ 前時で書いた振り返り用紙や実際に園児が遊んでいる動画を基に話し合わせる。 ○ グループで話し合った後に，他のグループも交えて話し合わせ，客観的な意見も取り入れられるようにさせる。 態 導き出した解決策が目的や条件，グループの優先順位とその割合に最も適していたかを振り返ろうとしている，または，導き出した解決策を見直そうとしているかを活動の様子から判断する。
15分	3 解決策を導き出すまでの過程について振り返る。 (1) 解決策を導き出すまでの過程について振り返り，プライオリティチャートに記入する。	○ プライオリティチャートに書かれているポイントの優先順位とその割合の変化とその理由を確認させる。 知 課題を解決するためのポイントを踏まえて，課題解決に必要な知識を理解しているかをプライオリティチャートから判断する。
10分	(2) グループで話し合ったことを基に振り返った内容を全体で発表する。	思 導き出した解決策が目的や条件，グループの優先順位とその割合に最も適していたかを評価し，その理由を考察する力を身に付けているかをプライオリティチャートから判断する。 ○ 拡散的思考や収束的思考の有効性を認識させる。

2年 家庭科
「幼児の生活と家族」

2年 組 番
名前

課題「附属幼稚園の園児が成長できる遊び(おもちゃ)を考えよう」

【どのように成長させたいか】



ポイント

	優先順位と割合の帯グラフ	優先させた理由
日付	<p>0 50 100</p>	
	<p>0 50 100</p>	
	<p>0 50 100</p>	
	<p>0 50 100</p>	

2年 家庭科
「幼児の生活と家族」

2年 組 番
名前

【課題】 附属幼稚園の園児が成長できる遊び(おもちゃ)を考えよう

☆ 解決策を導き出すまでの過程をまとめましょう。

・ポイントの優先順位とその割合の帯グラフを見て、その変化を振り返り、考えが深まったポイントや考え方が変わったポイントについて書きましょう。

運動 【 】%	学習 【 】%	社会性 【 】%	発想 【 】%	安全性 【 】%
------------	------------	-------------	------------	-------------

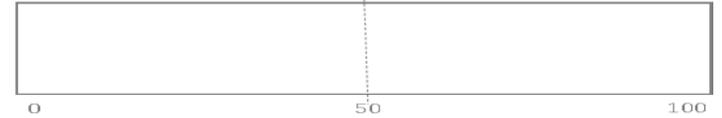
☆ 今回の授業を通して多くの解決方法を知り、その中から自分の優先順位にあった解決策を選ぶことは、より良い考えをもつために有効だったと思うか。○をつけましょう。

そう思う ・ ややそう思う ・ あまり思わない ・ 思わない

☆ 今回の授業を通して自分の生活に活かせそうなことを書きましょう。

2年家庭科
ソリューションシート

組 番
名前



プライオリティチャートの最終的な帯グラフ

課題: 附属幼稚園の園児が成長できる遊び(おもちゃ)を考えよう

	運動を最優先させた 解決方法 ()	学習を最優先させた 解決方法 ()	社会性を最優先させた 解決方法 ()	発想を最優先させた 解決方法 ()	【解決策】
運動					
学習					
社会性					
発想					
安全性					

9 家庭分野（A家族・家庭生活）【2年生】

「わたしたちの成長と家族・地域」（18時間完了）

(1) 題材の目標

知	幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解している。 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。
思	幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
態	よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。

(2) 学習の内容と評価の計画（18時間完了）

時	学習の流れ	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度	
		評	内容	評	内容	評	内容
課題： 附属幼稚園の園児が成長できる遊び（おもちゃ）を考えよう							
①	遊び（おもちゃ）を考える際に優先するポイントについて考えよう ○ ポイントの推考	A	発達には順序性や個人差があることを踏まえて、課題を解決するためのポイントとその必要性について理解している。	A	条件や目的を踏まえて自分の考えにあった優先順位とその割合を帯グラフに表し理由を考えている。	A	
		B		B	自分の考えにあった優先順位とその割合を帯グラフに表し理由を考えている。	B	
		方法		方法	【プライオリティチャート】	方法	
② ⑦	幼児の発達と生活について知ろう ○ ポイントの抽出 ○ ポイントの解決方法と照合 ○ ポイントの価値付け 「拡散的思考」「拡M」	B	発達には順序性や個人差があることを踏まえて、課題を解決するためのポイントについて理解している。	A	幼児との関わり方について幼児の発達段階に応じて工夫して考えている。	A	幼児の成長に関心をもち、心身の発達や生活習慣の習得について考えようとするとともに、課題解決に向けて自分の優先順位とその割合を見直して改善しようとしている。
		B		B	幼児との関わり方について工夫して考えている。	B	幼児の心身の発達や生活習慣の習得について考えようとする、または、課題解決に向けて自分の優先順位とその割合を見直して改善しようとしている。
		方法	【ソリューションシート】 【小テスト】	方法	【ソリューションシート】 【学習プリント】	方法	【プライオリティチャート】 【活動の様子】
⑧ ⑬	グループで遊び（おもちゃ）を計画し、製作しよう ○ ポイントの要素の変形 「収束的思考」「収M」	A	遊び（おもちゃ）を計画するために、ポイント毎に必要な情報を対象の年齢に応じて収集・整理している。	A	対象の年齢とグループの優先順位とその割合を考慮して、条件や目的を結び付けた解決策を導き出す力を身に付けている。	A	条件や目的に合わせた解決策を導き出そうとしているとともに、グループの優先順位とその割合の変化を見直しながら解決策を導き出そうとしている。
		B	遊び（おもちゃ）を計画するために、ポイント毎に必要な情報を収集・整理している。	B	対象の年齢とグループの優先順位とその割合を考慮して、解決策を導き出す力を身に付けている。	B	条件や目的に合わせた解決策を導き出そうとしている、または、グループの優先順位とその割合の変化を見直しながら解決策を導き出そうとしている。
		方法	【ソリューションシート】	方法	【ソリューションシート】	方法	【プライオリティチャート】 【活動の様子】
⑭ ⑮	グループで計画した遊び（おもちゃ）で幼児と関わろう ※ 幼稚園訪問	A		A	導き出した解決策が条件や目的、グループで目指していた優先順位とその割合に最も適しているかを評価し、理由を考察する力を身に付けている。	A	積極的に幼児と関わろうとしているとともに、導き出した解決策が条件や目的、グループの優先順位とその割合に最も適しているかを考えようとしている。
		B		B		B	積極的に幼児と関わろうとしている、または、導き出した解決策が条件や目的、グループの優先順位とその割合に最も適しているかを考えようとしている。
		方法		方法		方法	【活動の様子】 【学習プリント】
⑯ ⑰	学習を振り返ろう 「拡・収RM」	A	課題を解決するためのポイントを踏まえて、課題解決に必要な知識を理解している。	B	導き出した解決策がグループで目指していた優先順位とその割合に最も適しているかを評価する力を身に付けている。	A	導き出した解決策が条件や目的、グループで目指していた優先順位とその割合に最も適しているとともに、導き出した解決策を見直そうとしている。

		B	課題解決に必要な知識を理解している。			B	導き出した解決策が条件や目的、グループで目指していた優先順位とその割合に最も適しているかを振り返ろうとしている、または、導き出した解決策を見直そうとしている。
		方法	【プライオリティチャート】	方法	【プライオリティチャート】	方法	【プライオリティチャート】 【活動の様子】
⑩	幼児との関わりを生活に生かそう	A		A	家族の立場から幼児との関わり方について、自分の生活と結びつけながら考えている。	A	これまで学習してきたことを今後の生活に結びつけようとしているとともに、家族の立場から幼児との関わり方について、自分にできることは何かを考えようとしている。
		B		B	家族の立場から幼児との関わり方について考えている。	B	これまで学習してきたことを今後の生活に結びつけようとしている、または、家族の立場から幼児との関わり方について、自分にできることは何かを考えようとしている。
		方法		方法	【学習プリント】	方法	【活動の様子】 【学習プリント】